

2012 年度 第1回ロードレース委員会 議事録

【ダイジェスト版】

開催日 : 2012年7月17日(火) 午前10時30分～午後5時45分

開催場所 : (一財)日本モーターサイクルスポーツ協会・会議室

1 2012 全日本選手権 開催状況報告

全日本ロードレース選手権シリーズ

シリーズ	開催地	年度	開催月日	天候	観客数	エントリー 台数合計	JSB1000	ST600	J-GP2	J-GP3	
1	ツインリンクもてぎ	2012	3/29 ~ 4/1	晴れ	15,000	125	25	38	17	45	
		2011	7/1 ~ 7/3	晴	16,000	150	28	42	18	32	
2	鈴鹿サーキット	2012	4/13 ~ 4/15	晴れ	43,000	43	43				
		2011	5/12 ~ 5/15	うす曇り	34,500	48	48				
3	筑波サーキット	2012	5/11 ~ 5/13	晴れ	16,100	125	25	39	19	42	
		2011	3/31 ~ 4/3	中止							
4	オートポリス	2012	5/25 ~ 5/27	晴れ	17,105	41		41			
		2011	6/2 ~ 6/5	雨/曇	22,146	50		50			
2012年 (中止: 0)					合計	91,205	334	93	118	36	87
					1大会平均	22,801	84	31	39	18	44
					開催数	4	3	3	2	2	
					前年対比(%)	124%	79%	101%	85%	106%	133%

- ・ 全日本選手権全9戦のうち4戦終了、うち2戦が2&4大会であり、クラスごと、開催数は異なるが、参加台数は、JSB1000、J-GP2は横ばい J-GP3は33%増 ST600は15%減。総台数比較はMONOが終了したため、21%減。
- ・ 観客動員数91,205名で、1大会22,801名で、前年比24%増。

2 2012 全日本選手権シリーズランキング中間報告

- 1) 2012年度全日本選手権シリーズランキング表が提出され、確認、承認された。
- 2) ワイルドカードの選出方法

① 2012FIM MotoGP世界選手権シリーズ AirAsia 日本グランプリ大会

motogp、moto2、moto3クラスともに最大2名ワイルドカードの募集を8月3日締め切りで、MFJのホームページで公示中であることが報告された。

② 2012アジア国別対抗ロードレース シリーズ参戦日本選手の応募について

7月13日締め切りでMFJのホームページ公募は終了し、男女とも複数の応募があるが、アジア国別対抗戦の日程変更および追加大会もあり、日程がわかり次第、選抜を行うことが報告された。

<日程の変更>

第1戦 8月25・26日 日本(スポーツランド sugo)

第2戦 10月13・14日 台湾(夫鵬灣國際賽車場)

11月3・4日 (Long Tan National Speedway)

第3戦 11月17・18日 タイ(タイランドサーキット)

※赤文字：会議後に決定

③ 2012FIM アジアロードレース選手権 SS600 日本大会のワイルドカード公募について

SS600のワイルドカード数が、MFJ枠4名とプロモーター枠2名の日本人選手の選手枠およびエントリーフィーが決定したため、MFJのホームページで参加者の公募を行うことになった。

3 2013 主要競技会ロードレースカレンダー

主催者から下記の日程案が提出された。

- 1) 世界選手権

世界耐久選手権 8 時間耐久	7 月 28 日	鈴鹿サーキット
MotoGP	①案 10 月 6 日	ツインリンクもてぎ
	②案 10 月 20 日	
- 2) 国際選手権

FIM アジアロードレース選手権	9 月 8 日	オートポリス
------------------	---------	--------
- 3) 全日本選手権

	日程	大会	開催クラス				備考
			J S B	JGP2	ST600	J-GP3	
第1戦	3 月 3 1 日	ツインリンクもてぎ	○	○	○	○	
第2戦	4 月 1 4 日	鈴鹿 2 & 4	○				
第3戦	5 月 2 6 日	オートポリス	○		○		
第4戦	6 月 3 0 日	筑波	○	○	○	○	
第5戦	8 月 4 日	もてぎ 2 & 4		○		○	
第6戦	8 月 2 5 日	SUGO	○	○	○	○	アジア国別対抗 未定
第7戦	9 月 8 日	オートポリス		○		○	アジア選手権SS600/UB/CBR
第8戦	第① 10 月 6 日	岡山国際	○	○	○	○	第①案・・・MOTOGPもてぎ ①案日
	第② 10 月 13 日						第②・・・FI鈴鹿との同日
	第③ 10 月 20 日						第④・・・MOTOGPもてぎ ②案日
第9戦	1 1 月 4 日	MFJ-GP鈴鹿	◎	○	○	○	J S Bのみ2レース
全9戦	クラス別大会数		7	7	6	7	
	クラス別レース数		8	7	6	7	

全日本選手権の日程案が出され、ARTより下記の要望が出された。

- ・ もてぎ 2 & 4 大会を 1 週間後の 8 月の第 2 週または、現行の日程であれば、J-GP3 クラス開催のみまたは、ST600 クラスの開催に変更してほしい。

4 国内ロードレース普及

- 1) 地方選手権の役割と位置づけ、将来展望

事務局より、ロードレースの会員数、年齢構成、地方選手権、承認ロードレース大会の参加状況の説明を行い、各施設の地方選手権と承認ロードレース大会の開催状況に確認を行い、対策について審議を行った。

審議の結果

従来の全日本選手権、地方選手権のピラミッド構成は、昔と異なり、地方選のあり方、クラス構成、昇格制度、年齢構成、若手の取り込みなど個々での対応を行うのではなく、地方選の振興策を戦略的にすすめるために、ワーキンググループ (WG) を制定し審議を進めていくことになった。

また、このワーキンググループには ART やロードレース委員のほかに、WG グループの決定事項を遂行するうえで、各施設からメンバーを選出してもらうことになった。

- 2) 脊椎・胸部プロテクションの科学データと検査体制の共同開発について

脊椎・胸部のプロテクションの着用が規則になっているが、現在、ヨーロッパにおいて一般用のプロテクションの規格は存在するが、世界的に確立されておらず、国内において検査方法さらなるプロテクションの効果、プロテクション単体と人体に受ける衝撃などの科学的なデータ

と人体の模型や検査機器、検査方法の確立のため、「東京都立産業技術センターとの共同研究事業」の応募を行うことのできるを得た。

またこの審議に合わせて下記の意見が出され、確認された。

- ・ 将来このデータを一般の製品プロテクション) にフィードバックできるように CE (ヨーロッパ規格) と検証法などの整合性がとれるようにすること。
- ・ エアバッグシステムとの整合性をとること。

5 全日本ロードレースについて

1) 全日本ロードレース活性化提案 — JAPAN SUPER ENDURANCE (仮称) —

全日本選手権ロードレースの活性化と鈴鹿 8 時間耐久レース普及策

(ア) 提案の概要

全日本選手権内に、JSB1000 クラスをスプリントレースから、耐久レースとして「JAPAN・SUPER・ENDURANCE (名称：仮称)」を設ける。

全日本選手権ロードレースが決勝日に、従来クラス (スプリント) と午後より JSE として耐久レースを組み合わせ、3 時間耐久レースとして開催し、既存の JSB から完全にシフトする。参加ライダーは、2 名から 3 名程度で臨機応変にライダーの変更も可能。

(イ) 提案を受けての参加の意見：

- ・ アイディアがよくインパクトはありやってみたい気持ちはあるが、越えなければならないハードルも高い。参加者、主催者のコストアップが心配。
- ・ JSB 車両は、耐久規則と整合性があるため、8h 耐久と絡めて考えるのは自然の流れともいえる。
- ・ 耐久とスプリントを組み合わせでどこまで出来るのか？理想も高く、運営経費増、オフィシャル負担、チーム側のコストも心配。実施可能レベルの検証が必要。
- ・ 耐久レースの場合、ライダー、マシンはあるが、チーム側の運営コストは高騰が予想され、ST600 マシンで耐久レースをやれば、コストも抑えられ、アジアとのリンクもやりやすい。
- ・ 持続できるのか検証が必要。

(ウ) 上記の意見をまとめると

ロードレース委員会としては、この提案を基本的には委員会の推奨事項としてプロモーション委員会にて審議を委ねる。必要な場合提案内容を、段階的に取り入れていくことも可能とする。

2) ST600 クラスの車両規則のハーモナイズ

技術委員会にて検討されている ST600 とアジア選手権 SS600 との規則調整中であることが報告された。

依頼先	変更内容
FIM アジア アジア SS600 に変更要請事項	① F/R ディスクの交換 ② F フォークのコーティング
MFJ アジア SS600 に合わせる内容 (ST600 規則変更内容)	③ 車両重量 ④ クイックシフター
異なるポイント	⑤ 音量値

意見

クイックシフターの採用については、コストアップなども考慮すると、アジア選手権に参加に合わせて必要に応じて取り付け可能な部品のため、ST600 規則は現行のまま変更しないとの要望が出された。

3) ART 提案

① 走行データ配信の提供依頼

「チームの利便性が高まり、結果、データが技術の向上に役立つ」との提案については、ART 走行から決勝まで走行データを ART を窓口を提供することになった。

② 公式車検について

公式車検を金曜日(朝)に行う事があるが、その後スポーツ走行があり、エンジン載せ替えの必要が生じた場合申請料が必要となる。便宜的に行うのは理解出来るので、チーム事情も考え、必ず土曜日の朝にも補助的に行って欲しい。

金曜日の公式車検後に車両のトラブルやエンジン載せ換えについては、ART 走行の終了後 1 時間以内に大会事務局に申し出ることにより、再車検を許可する。この場合、マーキング部品の変更手数料は発生しない。

走行終了後 1 時間後以降の申請は、マーキング部品の交換に関する規則が適用する。

4) FIM 世界耐久 EWC クラスのタイヤ 17 インチ化提案の進捗状況

昨年来、MFJ は世界耐久選手権のタイヤサイズを 17 インチに変更提案し、昨年、ボルドー 24 時間耐久レースの折に FIM はタイヤマニュファクチャと作業部会が開催され、17 インチ化に対し、各タイヤマニュファクチャーは持ち帰り最近の作業部会で「反対多数」の返事があった。

すでに、WSBK が 2013 より 17 インチタイヤとアルミホイールに移行することが決定されている。だが、耐久レースにおいて、タイヤマニュファクチャーとしては 17 インチ化には進みたいがシェアや勝敗の振り有利と耐久チームの保有するホイール量が多くタイヤ交換のエクイップメントを含めて相当なコストとなるので 17 インチに決定するにもインターバルを何年にするのかの議論が簡単に結論を出せないものと思われる。

9 月のルマン 24 時間耐久レース時に、FIM とタイヤ作業部会が開催され再提案が行われる。

6 その他

1) 特別審査審議

ロードレースジュニアから国内への審査を行い、審議が認められた。

2) 関東ロードレース委員会報告と提案

(ア)「関東ロードレース委員会の議事録(6月20日開催)」が提出され、規則および運営方法について提案がされた。

以下の項目については、来年の規則に採用するか否かを次回の委員会までに審議する。

- ① 「ピットロードやスタート時にエンジン始動を手伝う時、等」の靴の定義について
- ② 「ピットロードでの危険を伴う追い越しは禁止される」を追記
- ③ 「スタートグリッド フロントホイール位置の記載方法の変更」提案
- ④ スタートディレイ時のグリッド上の人数改定

(イ) リザルトの表記の扱いについて

欠場ライダー(未受付・未車検・欠場届提出者)のリザルトへの表示方法(出走せず、スタートせず等)に関し統一表記について

リザルトへの「出走せず、スタートせず」の表記は、選手受付を行った選手に対して記載し、欠場ライダー(未受付・未車検・欠場届提出者)は、予選以降のリザルトには表記しないこととする。

3) 中部ロードレース部会報告と提案

7月20日に開催された「中部ロードレース部会」議事録が提出され、下記の提案および報告がされた。

- ① ST250クラスのグリッド上のタイヤウォーマーの使用について提案

- ② ライダーの安全装備についてプロテクション義務付け規定の安全基準数値の規定を明確にすべき
その他 エアバッグ装備の装着状況と普及クラス ST 2 5 0 クラスの状況が報告された。

以上